

平成29年度 本庄市交通政策協議会 (地域内フィーダー系統確保維持補助事業)

地域の公共交通の現況

現在、本市の主要拠点間の移動手段は、本庄地域と児玉地域(平成18年に本庄市と児玉町との合併により現本庄市となる)の間を結ぶ路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。また、従来の公共交通だけではカバーしきれない、いわゆる交通不便地域が点在している。



一部山村指定

事業の目的・必要性

交通不便地域の解消、また、高齢者等の交通弱者の移動手段確保を目的とし、市内の公共交通ネットワークを充実させることが喫緊の課題である。市内公共交通ネットワークを充実させるためには、基軸となる路線バスに接続するフィーダー系統の運行が必要である。フィーダー系統の運行により、公共交通を乗り継ぐことで市内を快適に移動することが可能になる。

面積	89.69km ²
人口 (H30.1.1時点)	78,707人
15歳未満	9,403人
65歳以上	21,322人
高齢化率	27%
世帯数	33,802世帯

事業の概要

市内の本庄地域と児玉地域を結ぶ路線バスを「地域間幹線系統」として運行し、両地域において地域間幹線系統に接続させる形で区域運行のデマンド型交通の運行をしている。また、交通結節点機能の充実を目的とし、本庄駅(JR高崎線)と本庄早稲田駅(上越新幹線)の両駅間を結ぶシャトル便(乗合バス型)を併せて運行している。

【デマンド交通:「はにぼん号」「もといずみ号」】

事業者名: 朝日自動車株式会社
 運行区域: ①本庄北地域、②本庄南地域、③児玉市街地、④児玉山間地域
 運行日: 月曜～土曜(日曜、祝日、年末年始運休)
 運行時間帯: 8時～17時(④児玉山間地域のみ、8時前、18時以降に通学用の運行)
 運行車両: ワゴン車(①④地域)、セダン車(②③地域)
 運賃: 300円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

【シャトル便:「はにぼんシャトル」】

事業者名: 本庄観光株式会社
 運行系統: 本庄駅～本庄早稲田駅 3.0km
 運行日: 365日
 運行時間帯: 9時～19時
 運行本数: 13.5往復/日
 運行車両: ワゴン車
 運賃: 200円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

協議会開催状況

- 協議会の開催状況
- ・平成27年度第1回(平成27年5月26日)
H28年度計画、改善点等の協議
 - ・平成27年度第2回(平成28年1月8日)
H27年度計画の事業評価について協議
 - ・平成28年度第1回(平成28年6月14日)
H29年度計画、課題・改善点等の協議
 - ・平成29年度第1回(平成29年5月24日)
H30年度計画、課題・改善点等の協議

前回の事業評価結果の反映状況

【デマンド交通】

○H28年9月20日に行った予約方法の変更に関して、PDCAサイクルに基づき変更による利用者からの反応の観察を行い、良好な結果を得た。

○新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを兼ねた懸賞クイズを掲載した。

【シャトル便】

○シャトル便が運行している本庄駅南口及び本庄早稲田駅間に初めて利用する方や高齢者等にもわかりやすいデザインの案内表示を設置し、周知の徹底に努めた。

○運行開始時にはシャトル便のみだった路線に、2事業者が乗り入れているため、今後のシャトル便のあり方について協議会において議論を進めた。

アピールポイント

路線バス(地域間幹線系統)、デマンド交通及びシャトル便の相互乗り継ぎの促進を図るため、豊富な割引メニューを用意している。

定量的な目標・効果

【目標】

○平成29年度(H28.10.1~H29.9.30)利用者数 ・デマンド交通:16,000人 ・シャトル便:11,000人

・地域間幹線系統(朝日自動車(株)路線バス):前年度対比で増加

○利用者満足度

・デマンド交通 満足:70%以上 不満足:現状より減少

・シャトル便 満足:70%以上 不満足:現状より減少

【効果】

・デマンド交通の運行により、交通不便地域の解消が図れ、高齢者等の交通弱者の移動手段が確保される。

・既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の相互の乗り継ぎにより、公共交通での市内移動が快適に行えるネットワークが形成される。

目標効果の達成状況

【デマンド交通】

H29年度利用者数:12,979人 利用者満足度:85.2%

・目標に対する実利用者数の割合は81.1%で、利用者数は前年度比4.0%減となった。特に昨年度まで利用者が増加傾向にあった児玉山間区域においては利用者数の減少が見られたが、児玉山間部で急速に進む人口減少が影響していると推測する。反して、人口の増加がみられる本庄南区域では前年度比5.7%増となる等、移動手段としての需要の高まりが確認できた。満足度は54.6%から85.2%に増加しており、車社会の中で移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の移動手段としてニーズを満たしている。

【シャトル便】

H29年度利用者数:10,948人 利用者満足度:82.7%

・目標に対する実利用者数の割合は99.5%で、利用者数は前年と同程度となった。交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ交通手段として定着が進むと共に、人口増加が進む区域において、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与しており、満足度も54.7%から82.7%に増加している。

今後の改善点

【デマンド交通】

運行開始から4年が経過し、特定の利用者による運行の硬直化が課題の一つである。これまで小さな改善は重ねてきたが、利用者離れを起こさないよう引き続き満足度の向上に取り組むと共に運転免許証返納者等新規利用者の獲得の必要がある。また、予約の電話がつながり難いという声を受けて、昨年度事業で予約方法の変更(利用日の前週の月曜日から当日→利用日の1週間前から利用日当日)を行い利用者から以前よりつながり易くなったという良好な反応を得たが、それに伴い電話はつながるが希望した時間に予約が取れないという要望がでてきているため、運行方法等の抜本的な見直しを検討していく必要がある。

【シャトル便】

「前回の事業評価結果の反映状況」欄に記載のとおり、シャトル便を取り巻く環境が運行開始時から変化している。実情に合った地域交通網を形成していくという観点から、シャトル便を含めた各交通手段の分担する役割を整理していく必要がある。